

英米文化学会 第165回例会発表
横溝祐介(明海大学)

— 発表タイトル —

都市の発達と技術普及による英単語“station”の
表象変化の可能性

1

研究の目的

本研究では、英単語の“station”の表象に
「(鉄道の)駅」が生まれる経緯を明らかにする
ことを目的としている。

2

<研究のフレームワーク1:姿勢>

“station”という語は鉄道の誕生よりも以前から
存在している多義語である。故に、その表象を扱
うならば、語源学だけではなく意味論・記号論の
アプローチが必要となる。(初歩的でも学際的な
態度が必要である。)

3

<研究のフレームワーク2:先行研究>

岸山(2011)は『語源学の技法 - 言語教育に
生かす習得法』の中で、語源学は印欧語での
研究が最も進んでいるが、祖語の研究の進歩
に見ても、本来の文献学からかけ離れてしまっ
ているとしており、語源を遡る「面白さ」、英語教
育の分野で実用的に運用する試みをしている。

岸山曜(2011)『語源学の技法 - 言語教育に生かす習得法』学苑(光復会)・文化創造学科紀要 No.053, pp.1-40.

岸山(2011)のワークシートから抜粋

Which field are the following questions in?

- Is there any difference of /l/ sound between 'low' and 'apple' ?
-phonemics
- Is there any difference between 'No apple.' and 'No apples.' ?
-morphology or syntax

岸山(2011)『語源学の技法 - 言語教育に生かす習得法』学苑(光葉会)・文化創造学科紀要 No.853, pp.1-10.
5

岸山(2011)のワークシートから抜粋

- What's the origin of the word 'apple' ?
-etymology
- What do you say 'apple' in German and Russian?
-comparative linguistics
- Are Western apples green?
-semantics

岸山(2011)『語源学の技法 - 言語教育に生かす習得法』学苑(光葉会)・文化創造学科紀要 No.853, pp.1-10.
6

語源学を研究に活用する位置付け1

岸山(2011)の試みでは、語を探求する「面白み」を発見させるために、前述の質問を用意して、様々な学問領域を紹介する。

しかし、一つの語を対象にしているわけではなく、あくまで多くの人に親しみがあるという理由から 'apple' を採用していると推測できる。

7

語源学を研究に活用する位置付け2

発表者は、これに "station" を採用するとどうなるかを、今回の発表主旨としたい。

認知度の高いと思われるこの語の変化や特徴を追う作業は興味深い例になると思われる。

8

“station”の語源

“station”の語源はラテン語の“statio”と“stare”に遡ることができる。

<それぞれの意味>

verb “sta-re” (To stand)

noun “sta-tio” (Action or condition of standing)

語根 “sta / stō”

樋口勝彦、藤井真(1963)『詳解ラテン文法』新装第3刷(2010)、東京、研究社、pp. 169-170。
Gildersleeve B. L. and Gonzales Lodge (1895) *LATIN GRAMMAR*,
3rd edition revised and enlarged (1992), UK, Thomas Nelson and Sons Ltd. pp.258, 277, 537.

語根“sta / stō”を共有する他のラテン語“status”

L. “status”も語根を共有するラテン単語である。この語は(状態・安定)を意味する。

このラテン語は、以下のような変化をたどった。

- 古フランス語OF. “estat”
- 中英語ME. “stat”
- 現代英語PE. “state”

この間、語の意味は(状態・形勢)→(地位・身分)→(威厳)→(支配階級)→(為政者集団)→(国家)のように多義化している。

堀田隆一、「hello! ~英語史ブロック:なぜ英語史を学ぶか」。
<http://user.keio.ac.jp/~rhotta/cgi-bin/etymology_search.cgi>2021.10.4 閲覧

“station”の語源

語源辞典によると

① L. *stāre* (v) → L. *status* (p.p.) → L. *statiō* (n)

② OF. *estatio*、ME: *stacioum*、*estatioum*

と説明している。

寺澤芳雄編(1997).『英語語源辞典』、第8刷(2018)、東京、研究社、pp. 1337-1345.

“station”: 複数インターネット辞書の検索結果例

観測点, 観測所, 観測地点, 基準点, 根拠地,
場所, 持ち場, 警備区域, 署, 局, 本部, センター, 位置, 駅頭,
駅, ステーション, 駅舎, 駅[発着所]の建物, 停車場, 牧場, 詰所
発着所, ターミナル(終点), 基点,
放送局, (供給)所,
地位, 身分,
端末, 端, 端末
, etc...

(諸辞書検索結果から発表者が並び替え)

Weblio英語辞典・和英辞典 <<https://ejje.weblio.jp/content/station>>2021.10.4閲覧

"station": OEDによる説明

OEDでは"station"を大きく5つに分けている。

- ①Action or condition of standing.
- ②Standing-place, position.
- ③A stopping-place.
- ④Ecclesiastical uses.
- ⑤Combinations.

Simpson J.A and Weiner E.S.C.(1989). *The Oxford English Dictionary*, second edition, III, Oxford University Press, NY, Rand McNally & Company, pp. 563-567. 13

多義語としての"station": OEDによる説明の特徴づけ

それぞれに特徴付けを試みると、

- ①Action or condition of standing. (個の身体性)
- ②Standing-place, position. (個の位置、姿勢)
- ③A stopping-place. (場所)
- ④Ecclesiastical uses. (キリスト教的な使用)
- ⑤Combinations. (組み合わせ)

※この順番で意味が生成されたわけではない。
しかし、①②③は出自とするラテン語の意味に比較的近い。
また、多くの人が移動し、集まり、休憩をとる場所という文脈では③④⑤は共有していることが多い。

14

語源辞典による④キリスト教的の用例について

これは"station"のOEDの用例の中でも、最も古いの部類に入り、15世紀の文献が記載されている。

語源辞書によると意味としては「(ローマの)指定参詣聖堂を指す」とあり、やはり祭事や巡礼、を目的とした、人の風俗を想起させる用例である。

寺澤芳雄編(1997).『英語語源辞典』,第8刷(2018).東京,研究社. pp. 1337-1345. 15

多義語としての"station": ①②③に当てはまりそうな意味に色分けを試みた

地位, 身分, 持ち場, 警備区域, 駅頭,
位置, 場所, 署, 局, 本部, センター, 駅, ステーション, 駅舎,
駅[発着所]の建物, 停車場, 発着所,
放送局, (供給)所, 牧場, 詰所
観測点, 観測所, 観測地点, 基準点, 根拠地, 終点, 基点,
端末, 端, 端末
etc...

結果・考察: 試みたものの、この色分けは困難であった。そうなのは、⑤の「combinations」を想定している項目が多いからではないか。

16

Stationという語の特徴: 特に⑤combinationで派生語が増える

今日も一般的な表象として、Station=「(鉄道の) 駅」に立ち戻ったとしても、“subway station”と“railway station”では「意味されるもの」は変わる。

17

Stationという語の特徴: 特に⑤combinationで派生語が増える

それ以外にも、“police station”は警察署であり、“broadcast station”(放送局)や“radio station”(ラジオ局)、そして、“post station(宿場)”などと組み合わせの用例は多数である。

つまり、stationという語は、combinationによる派生語の増加が顕著な語と特徴付けられないだろうか。ただし、仮に多義語として際限なく増えることになっても、語の持つ中心的イメージは存在するだろう。

18

中心的なイメージについて: 示唆的な用例

combinationの用例に“Post station”という表現がある。それは(宿場/厩)を意味する。そして“sta/sto”を語根とする英単語の中には以下のようなものがある。

stake(賭け競馬の賞金、牛・馬をつなぐ杭)
 stale(馬・ラクダの放尿/放尿する)
 stall(OE.厩舎)
 stamp(烙印を押す)
 stampede(家畜の大暴走)
 stanhope(軽二/四輪馬車)

etc....

瀬谷 廣一(2001), 『語根中心英単語辞典』, 第9刷(2015), 東京, 大修館, pp. 227-231.
 寺澤 芳雄編(1997), 『英語語源辞典』, 第8刷(2018), 東京, 研究社, pp. 1337-1345. 19

文化的側面: 都市の中/都市間の風俗、家畜を伴った人々の営みの背景

駅伝制

中央から辺境に伸びる道路にそい、適当な間隔で人・馬・車などを常備した施設すなわち駅を置き、駅を伝わって往来する交通・通信の制度。

以下の地域において前近代から確認されている。

・古代オリエント・古代ローマ世界・イスラム社会・中国・日本

20

古代オリエントの駅伝制

- 王の通信や行政連絡、交易品の輸送に早飛脚が利用されていた。
- 駅伝の存在はアッシリア帝国時代のものが確認されている。
- スーサ・サルディス間に有名なく王道>の他にも、スーサと帝国諸州を結ぶ主要道路には、1日旅程ごとに宿駅が置かれていた。
- <王道>は約22kmごとに111の宿駅があった。
- 古代ペルシアの駅伝制は、のちにイスラム世界に伝えられ、さらにヘレニズム国家を通じてローマの駅伝制にも影響を与えた。

下中弘編(1988)『世界大百科事典』, 第3巻, 東京, 平凡社, pp. 482-484, 493-494. 21

古代ローマの駅伝制

- アケメネス朝ペルシアにおいて発達した駅伝制がローマに受け継がれ、制度として確立した。
- 本来は軍事的な目的から、しかしだいに広く人間および郵便の輸送が組織化されていった。
- 輸送を重んずる車便(牛が大型の車をひく)とスピードを重んずる早飛脚(ラバが車をひき、馬が人を運ぶ)の二つの型があった。
- いづれも国家のためのもので、公用の使者、役人、軍人、聖職者など許可されたものだけが利用できた。
- 街道には駅場として、約80kmごとに宿泊場が設けられ、後に鞍馬を帰るための小駅もつくられた。

下中弘編(1988)『世界大百科事典』, 第3巻, 東京, 平凡社, pp. 482-484, 493-494. 22

イスラム社会の駅伝制

- イスラム社会の駅伝制は「バリード」と呼ばれ、7世紀ごろに、ペルシアやビザンティン帝国の駅伝制を踏襲して確立し、重要な政府機関となった。
- バリードの駅舎はイランでは12kmごとに、イラクやシリアでは24kmごとに置かれるのが原則であった。
- 9～10世紀ごろには全国で930余の駅舎が存在した。
- 西方のアラブ地域ではラクダが用いられ、危急の場合には馬や伝書鳩が利用された。

下中弘編(1988)『世界大百科事典』, 第3巻, 東京, 平凡社, pp. 482-484, 493-494. 23

中国の駅伝制

- 中央集権国家体制の下にあった全中国においても、駅伝は古くより発達して、その網は全国にはりめぐらされていた。
- もともと「駅」とは騎馬により、「伝」は車馬によるものをいう。また人夫によるものを「郵」という。
- 小国分立の時代には発達しえないものであるが、原型は先秦時代に見える。戦国時代には各国で実際に設置されていた資料がある。
- 秦代には都の咸陽(かんよう)から馳道と呼ばれる大道が放射状に伸び、今もその遺構が見出される。
- 漢代には原則として約12.4kmごとに駅が設けられ、駅馬が置かれた。また駅よりも小規模なものとして「亭」という施設もあった。

下中弘編(1988)『世界大百科事典』, 第3巻, 東京, 平凡社, pp. 482-484, 493-494. 24

日本の駅伝制

- 日本古代の駅伝制は車を欠き馬のみによるが、朝廷が関与した駅制と国郡に管理させた伝馬制に分けられる。
- 萌芽は6世紀末～7世紀前半にかけて、大和朝廷の全国支配が進み、大陸に隋・唐の大帝国が出現して、朝鮮半島を圧迫しはじめたころ、北九州との間の連絡のために発生したと考えられる。
- 8世紀初頭には唐を模範とした駅制を全国に拡大した。
- 各国の国府を連絡する東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海の7道をそのまま駅路とし、駅路には原則として16kmごとに置かせた。

下中弘編(1988)『世界大百科事典』, 第3巻, 東京, 平凡社, pp. 482-484, 493-494. 25

共通して見られる特徴から

前近代から世界各所で見られた、「駅伝制」は、各エリアで発達のみならず、中央と地方の断絶、隣り合う自治区との断絶などにより、中央弱体化による維持の難、によって衰退した例もある。しかし以下のことは後代に受け継がれたと思われる。

用意された街道・道路の活用、動物の活用、縮小したエリアでのシステムの維持・活用。これらは民間の利用目的というよりも、公的な性格が強かった「駅伝制」が人々の営みとして広がる背景と考えられないだろうか。

特に物理的な側面から、整備された道路の活用は近代以降のrailwayの用地に役立ったと推測できる。

26

本発表のまとめ

- “Station”という英単語を語源として遡ると、意味としてはOEDに確認される5種類のものがあった。中でも、combinationで派生語が増えていく性格が見られた。
- 多義語としての成立・派生語の増加の背景に、人びとの営み(動物を伴う)があると考察した。Station以外にも、“sta”という語根を共有する他の語にも、家畜動物の生態と扱いに関する語が見られた。
- 人々と家畜の関係をマクロな視点で考察した際に、人類史には「駅伝制」があり、都市と人と家畜の関係から、後代の鉄道の普及の準備という意味で、重要な遺産を残したと考えられないだろうか。

27

今後の展望と課題

“station”という語の別の語とのcombinationによる派生語はエネルギーや技術の発達によって広まると予測はできる。水素ステーション、EV(電気自動車)の電気ステーション等、例をあげることにご欠かない。さらに、物理的な移動は、インターネットの世界に入り、今日ではstationと検索すると「端末」という意味も見られた。

予測がたつとはいえ、その性格を決定づけた要因は、産業革命に端を発する「19世紀の鉄道文化の発達・普及とそれに付随する風俗」であると位置づけ、その特徴と語の用例の因果関係について、今後も探求したいと考えている。

28

参考文献

- 小野清之, 小池茂, 田中俊宏, 松永和生, 湯沢威(2012).『近代ヨーロッパの研究⑩—鉄道』原鶴ミネルヴァ書房, pp. 38-47.
- 風間喜代三(2005).『ラテン語・その形と心』, 第三刷(2008). 東京, 三省堂, p. 275.
- 岸山睦(2021).『語源学の技法 — 言語教育に生かす習得法』, 学苑(光栄会)・文化創造学科紀要 No.853, pp. 1-10.
- 下中弘編(1988).『世界大百科事典』, 第3巻. 東京, 平凡社, pp. 482-484, 493-494.
- 瀬谷廣一(2001).『語源中心英単語辞典』, 第9刷(2015). 東京, 大修館, pp. 227-231.
- 田代正雄著(2005).『語源中心英語辞典(改装版)』, 改装10刷(2021). 東京, 南雲堂, pp. 270-273.
- 寺澤芳雄編(1997).『英語語源辞典』, 第6刷(2018). 東京, 研究社, pp. 1337-1345.
- 樋口勝彦, 藤井昇(1963).『詳解ラテン文法』, 新装第3刷(2010). 東京, 研究社, pp. 169-170.
- 政村秀實(2002).『英語語義イメージ辞典』, 第11刷(2021). 東京, 大修館, pp. 426-427.
- 湯沢威(2014).『鉄道の誕生-イギリスから世界へ』大阪, 創元社, pp. 18-37.
- Gildersleeve B. L. and Gonzalez Lodge (1895) *LATIN GRAMMAR*, 3rd edition revised and enlarged (1992), UK, Thomas Nelson and Sons Ltd, pp. 258, 277, 537.
- Simpson J.A and Weiner E.S.(1969). *The Oxford English Dictionary*, second edition, III, Oxford University Press, NY, Rand McNally & Company, pp. 563-567.